

道徳科学習指導案

1. 学 年 第3学年
2. 教 材 名 いのちをつなぐ岬（光村図書4年）【自然の大切さ】D（19）自然愛護
3. ね ら い ウミガメの産卵の写真や保護に取り組む人々の思いを通して、自然を守るために大切な心について考えさせ、自然やそこに生きる動植物を大切に、環境保全について関心をもととする心情を育てる。
4. 本 時 の 目 標 動植物に関心を持ち、環境保全につとめる人々の心情を考える。

5. 本時の展開

	学習活動	指導の内容と予想される反応	指導上の留意点	場の設定と評価
導入 1	コミュニケーションゲームを行う。	<p>・ジェスチャーゲーム</p> <p>5人または6人1組で教室の前に出てもらい、他の児童はジェスチャーゲームをしている様子を観る。</p> <p>「釣り」や「お風呂」などのお題でジェスチャーゲームをする。</p> <p>動きが段々と変わっていき、最初のお題と最終的に動きが変わっていくのをクラスで楽しむ。</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>人前で表現することが苦手な児童でもできるような、何か特徴的な動きがあるようなお題が望ましい。</p>	<p>場の設定と評価</p> <p>その時間を当事者としてやる側と俯瞰的にみる側の2つの側面で体感する。</p> <p>正解を出すことだけではなく、「わからない」ことや「他者との違い」の楽しみ方を体感する。</p>
導入 2	クイズに参加し、ウミガメについての学習であることを把握する。	<p>実は僕は俳優をしていて、今度ある生き物を演じる予定なんですけど、人間じゃない生き物なので気持ちもよく分からないし、僕はその生き物のことなんだか怖いなと思っていて上手く演じられませぬ。</p> <p>だから今日はみんなと一緒にこのある生き物について考えてみて、この生き物の魅力を教えてもらえたらなと思ってます。</p> <p>ではその僕が演じる予定の生き物とはなんでしょうか、クイズです。</p> <p>静岡県御前崎市、三方を海に囲まれた岬の町に暮らしているある生き物の事を今から紹介します。</p> <p>わかったら口に出して言ってください。</p> <p>『私は、海藻や貝を食べたりします』</p> <p>『は海のそばに住んでいます』</p> <p>『私の足跡はこんな感じです』</p> <p>『私は大体100センチぐらいあります(小1ぐらい)』</p> <p>「魚」「ザリガニ」</p>	<p>手を挙げて答えてもらうのではなく、わかった瞬間に口々に言ってもらおう。</p> <p>何度答えても良い。</p>	<p>【俳優という設定】</p> <p>学ぶのではなく、「自分の感じた事を伝える」</p> <p>俳優の役作りを助けるために、ウミガメについて共に学んでいくという設定で学習への意欲を喚起する。</p> <p>【私は誰でしょう】</p> <p>登場するウミガメへの想像力を一歩進んだ形で膨らませる。ウミガメへの興味を誘導する。</p> <p>【手を挙げて答えてもらわない】</p> <p>正解を出すのではなく、思った事を共有する場作りの演出</p>

展開前段	ウミガメを演じることを通して、ウミガメの心情を理解する。	『この写真にうつってるウミガメさんに質問するなら何を聞く？ 班で考えて1つ質問してみよう』 →講師がウミガメになりきって答えてみる ※うまくいかないパターンを作る。 『みんながウミガメだったらなんて答えると思う？』 → 班であがった回答を俳優が読んで演じてみる。	ウミガメについての正しい知識を身につけさせるのではなく、興味を持ってもらう事を優先させたい。 講師はまだウミガメになりきれていない。	「今から見てもらうのはある夏の夜の砂浜にやってきたウミガメをとらえた写真です」という導入から写真を見てもらう。 ※他者への想像力と興味を喚起させる。
展開中段	保護監視員について知る。	『ウミガメの産卵の時期になると、毎朝、御前崎の海岸に「ある人たち」が現れる。この人たちは誰でしょう？ 「様子を見に来る近所の人」「卵を取る人」 「いたずらしている人かもしれない」 『私は「ウミガメ保護監視員」です。私はウミガメの巣穴から丁寧に卵を掘り出します。』	写真だけ載っているワークシートを用意すると、相談しやすい。	この人たちは何でこんな事をするのかあという想像を働かせるような演出効果 評価 ウミガメの産卵に多くの人が関わっていることに気付き、海の環境を守ろうとする人々の思いについて考えを広げている。
展開後半	子ガメと親ガメの写真にセリフをつける。	「海に帰ってきたよ、ただいま〜」 「人間に助けてもらえたんだね。ありがとう！」 『ウミガメを大切にするためには、まず、ウミガメのことをよく知ることが重要です』 「ウミガメの親子の気持ちが伝わってきましたね。俳優さん、ウミガメ役、うまく演じられそうですか？」	正解があるような問いかけではなく、「場面にあったセリフを考える」という楽しさを提示したい。 子どもたちのロールプレイを通して、俳優が学んだ「ウミガメの気持ち」をまとめることで、児童の活動へのフィードバックをする。	その場に自分がいたらという想像力を、世話をしている当事者だけではなく周囲の人にもフォーカスを当てる事でより立体的にする。 ※当事者性 自分が書いた言葉を使って他者（講師や児童）が演じることで、自分自身を見つめるきっかけを作る。
終末	振り返りを書く。	「海にゴミを捨てないようにしようと思いました。」 「保護監視員のことを初めて知りました。」	書くことが見つからない児童には個別に声をかける。	ノート

6. 学習指導要領との関連

本単元ではD「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導要項「自然愛護」(19)自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。副次的に「生命の尊さ」(18)生命の尊さを知り、生命

あるものを大切にすること。を受けて指導する。

外部講師（俳優）が「みんなから愛されるウミガメ役」をうまく演じられるよう助ける中で、児童はウミガメの保護活動を行う人々や、ウミガメの産卵の様子、生まれたウミガメが生育した後に海岸に戻ってくることを知る。また、ウミガメの保護活動を行う人になりきって「ウミガメがどうして愛されるのか？」を考えることで、環境保護やその必要性について考えることができる。ウミガメが多くの人や生命の中で守り育まれていること、厳しい自然環境の中で母ガメとして戻ってくるカメは少ないことにも言及し「生命の尊さ」単元につなげる。